

ひまわり

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

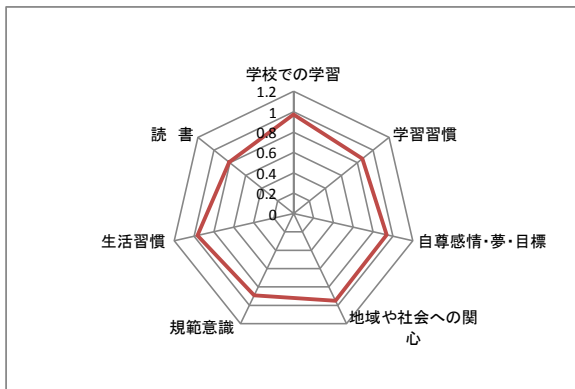
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的には全国平均正答率を上回ることができた。どの領域・観点においても上回っている。 ・話すこと・聞くことについては、特に、力を身に付けていることが分かる。	上回っている
国語B	・全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、多くの問題では、全国平均正答率とほぼ同等の正答率であった。 ・引用して考えを述べる問題についての正答率が低く、根拠を明らかにして述べる学習に力を入れていく必要がある。	下回っている
算数A	・全国平均正答率を上回っていた。どの領域・観点・問題においても上回っていた。 ・数と計算、数量関係においては、特に、力を身に付けていることが分かる。	上回っている
算数B	・全国平均正答率を上回っていた。どの領域・観点・問題においても上回っていた。 ・正答率が高いものの無回答率も高いため、自分の考えを積極的に表現できる力を身に付けることが大切である。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

学校での学習活動では、「総合的な学習の時間」の充実を図ることが課題である。また、読書量は、学年によって差があり、一進一退を続けている。家庭での学習においては、宿題のように学校から出題されているものについては、確実にやっているものの、自主学習や計画性をもった家庭での学習習慣が身に付いていない。自尊感情や夢、目標については、徐々に数値が上がってきている。生活習慣については、年々改善傾向にある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

全校的取組・・・朝学習(プリントタイム・問答ゲーム・音声計算)、昼学習(計算マスタータイム・パワーアップタイム)
学年の取組・・・学力向上強化月間(第4・5学年)、6年間のまとめ(第6学年)
学級の取組・・・家庭学習の強化

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習の取組・・・家庭学習通信(家庭学習の行い方・価値付け・啓発)
SNS啓発の取組・・・SNS学習(第3学年)・保健指導と保健だより(メディアに関する指導と情報発信)
早寝早起き朝ごはんの取組・・・保健室だより・学校保健安全委員会